

平成 26 年度理学部卒業予定者アンケート

理学部では、平成 27 年 1 月から 2 月末にわたり平成 26 年度理学部卒業予定者を対象に大学生活全般に関するアンケートを実施した。今回の対象者は、平成 19 年度学部改組後 5 回目の卒業生に当たり、273 名中 180 名から回答があった。回収率は 66%であった。

「Ⅰ．分析と今後の教育へのフィードバック」は平成 27 年度理学部の各コース長が担当した。また、「Ⅱ．集計結果」は理学部大学点検評価委員会が受け持った。

I. 分析と今後の教育へのフィードバック

【数学コース】

数学コース卒業予定者 53 名のうち 42 名から回答があった。以下では、項目に分けて分析を行い、それを踏まえて今後の教育へどのように活かしていくかを述べることにする。なお、過去四年間のアンケート結果を必要に応じて引用する。その際に、各年度のパーセンテージを（22 年度、23 年度、24 年度、25 年度）のように表すことにする。

【全般的な質問】

「高知大での勉学や生活で満足できたもの」のうち、もっとも多かったのは「友人との出会い」で 86%であり、昨年度までの（74%、83%、70%、70%）と比べて今年が最も多い。2 番目が「研究室での卒研やゼミ」57%であり、昨年度までの（57%、63%、72%、51%）とほぼ同様である。3 番目は「授業」と「先生との出会い」が同数で 40%になっており、これらも昨年度までと大きくは変わっていない。全体に見て年度ごとに多少の増減はあるが、単年度の結果のみで特に対策が必要な数値ではないと思われる。

「高知大での勉学や生活で満足できなかったもの」のうち、最も多いのが「授業」であり 36%となっている。これは昨年度までの（57%、27%、33%、37%）とは大きく変わっていない。2 番目に多いのが「課外活動」であり 31%となっている。昨年度までの推移は（11%、27%、23%、37%）である。

教育研究施設（学習環境）については、満足・ほぼ満足を合わせると 78%となり昨年度までの（89%、94%、90%、89%）から比べると若干落ちてはいるが、ほぼ不満は無いと考えてよさそうである。

就職支援活動については、満足・ほぼ満足を合わせると 71%となり、昨年度までの（66%、61%、78%、79%）よりは若干減っているが、そう大きく変わってはいない。

ボランティア活動への参加は 36%と昨年度までの（37%、29%、32%、44%）とあまり変わらず、また、満足・ほぼ満足の合計は 100%で、これまでの（93%、100%、84%、90%）と同じくボランティア活動をした学生にとっては、よい経験であったようである。

【受講科目の感想】

満足できた授業の数は、もっとも多かったのが 20～29 で 33%になっている。また、全体の分布はきれいに左右対称になっている。満足した理由については、「専門分野の実力がつ

いた」が最も多く 64%（昨年までは 63%、50%、63%、47%）であり、「親切で丁寧な授業であった」がそれに続き 52%（昨年度までは 60%、63%、67%、53%），そして「教員の熱意が感じられた」が 3 番目で、26%となっている。

満足できなかった授業の数は、9 以下が最も多く 45%であり、10～19 がそれに続き 26%となっており、この 2 つを合わせると 71%になる。過去のデータと比較して、満足できない授業数が少なくなっているように感じられる。満足しなかった理由では、「不親切でわかり難い授業」が 52%と最も多い。昨年度までは（49%、44%、57%、37%）であった。また、「一方的な押し付け授業だった」が 43%（昨年度までは 38%、38%、45%、35%），「実力がつかなかった」が 24%（昨年度までが 37%、46%、28%、47%）とそれに続く。

【標準履修モデル】

内容や難易度について、基礎科目も専門科目も、ともに 93%が「適切に配置されていた」あるいは「概ね適切に配置されていた」と答えており（昨年度まで、基礎科目 90%、94%、98%、96%、専門科目 95%、90%、98%、95%）不満はないようである。教育目標と履修モデルについて合致していたかについても 93%が肯定的な回答であった（昨年度までは 80%、91%、88%、93%）。

【専門科目への要望】

「より高度な授業内容を実施してほしい」という要望に対しては、「概ねそのとおりである」が 40%、「あまりそう思わない」が 43%であり、基本的には現在の内容を続けることが望まれているようである。また「難しい授業が多すぎるので、もう少しレベルを下げしてほしい」という要望に対しては、「あまりそう思わない」が 69%と圧倒的に多く、次に「概ねそのとおりである」が 24%と続いている。こちらも現在のレベルを続けることが望まれているようである。一般には、学生の希望より若干高度な内容の授業が良い授業であるという考え方があり、その意味では、「概ねそのとおりである」の内容が増えるよう、若干レベルを上げるようにする方向が良いのかもしれない。

「社会に出て役立つことを授業に盛り込んでほしい」という要望に対しては、「あまりそう思わない」が 55%と最も多く、「概ねそのとおりである」が 31%とそれに続く。具体的な要望としては、「コミュニケーション能力」が多く上がっている。その他の要望も社会人としての一般常識に関することが多く、これは昨年度も同様であった。これらは数学の専門教育というより、一般教養の範疇にはいる内容であろう。

【成績評価】

成績評価については、「適切であった」と「概ね適切であった」を合わせると 78%であり、ほぼ適切に行われていると考えてよいが、否定的な回答も 21%あり、昨年度までの（6%、13%、15%、14%）と比べると若干増えている。ただ、否定的な意見もすべて「適切でない授業もあった」というもので、「たくさんあった」と答える者はいなかったが、成績評価には学生は敏感であることも忘れてはならないことであろう。

【授業改革】

授業科目数と内容の適切さについては否定的な回答は 7%と少ない。昨年度までも（12%、2%、5%、0%）であり、科目数としては適当と考えて良いと考える。

【アドバイザー教員制度】

アドバイザー教員制度については、一人を除いてすべて肯定的な回答(98%)をしている。昨年までも肯定的な回答は(94%、96%、95%、93%)であり、おおむね適切に機能していると考えられる。

【分析と今後の教育へのフィードバック】

自由意見には、「3年次からゼミの配属があってもよいと思う」や「後輩にはもっとレベルの高い授業をしてあげてほしい」などの意見もあり、より充実した高度な教育を望んでいる学生がいることがわかる。全体のレベルに合わせると、どうしてもより高度な内容を望む学生や、反対に授業についていけなくなる学生が出てきてしまう。それを解消するためには、個人個人に合わせたきめ細かな教育が必要になるが、そのためにはより多くの教員が必要になり、現状ではなかなか難しい点もある。高知大学は、他大学と比べて教員と学生の距離が近く、きめ細かな学生指導が行われており、その結果不満のある学生の数は割合としては低くなっているが、さらに減らしていくよう努力をしたいと思う。

最後に、95%が「総合的に考えて、高知大学理学部で学んでよかった」と考えており、少なくともこの学年の学生に対しては、学部およびコースの教育は適正であったと考えている。

【物理科学コース】

平成23年度、24年度、25年度、26年度の4年分のアンケート結果と以前のものとのを比較し、それに基づいて分析を行い、今後の物理科学コースの教育等にどう生かしていくかについて考える。平成23年度、24年度、25年度、26年度の物理科学コース卒業予定者18名、15名、24名、20名のうちそれぞれ11名、4名、12名、19名から回答を得た。以下で各年度のパーセントを(23年度、24年度、25年度、26年度)で表すことにする。

【全般的な質問】

「高知大での勉学や生活で満足できたもの」のうち、「友人との出会い」は(82%、75%、58%、58%)であり、かなり割合は高く、平成23年度と平成25年度が一番であった。また「研究室での卒研やゼミ」については(73%、100%、58%、74%)と同様に割合は高く、平成24-26年度が一番であった。研究室での活動と横のつながりが大学生活の印象として強く残っているのは、地方大学ならではの特長といえよう。また授業については(50%、50%、33%、26%)とそこそこの数値に落ち着いている。一方で、「高知大での勉学や生活で満足できなかったもの」のうち、授業についての数値を見ると(36%、0%、25%、26%)となっており、授業内容に満足していない学生が一定数存在する。今後も各教員が授業内容について検討をすることが必要であろう。満足できないもののうち数値的に無視できないのは課外活動であり、(18%、25%、25%、16%)であった。課外活動を満足できるものと回答した学生は(27%、50%、33%、26%)と依然相対的には多いものの、今後の動向を注視したい。

教育研究施設（学習環境）についての満足度は、満足、ほぼ満足を合わせると（82%、90%、92%、84%）であり、学習環境は十分に整っていると考えて良さそうである。

高知大学の就職支援活動については、満足、ほぼ満足を合わせると（36%、50%、42%、79%）であり、少々波がある。物理の素養を身につけた者の社会での活躍の場は広い。就職率が上がれば満足度も上がると考えるのも早計であり、たとえ卒業と就職の時期があくにせよ、本人にとって納得のいく就職ができるよう長い目で見守るのも大事な支援なのかもしれない。

ボランティア活動への参加は（45%、0%、8%、42%）と数値的には低いものである。しかし、満足、ほぼ満足と答えた学生はうち（75%、NA、100%、75%）であり満足度は大きいようである。これらの活動がキャリア増進につながれば幸いである。

【受講科目の感想】

満足できた授業の数は40以上（0%、25%、17%、16%）、30-40（9%、0%、25%、16%）、20-30（45%、0%、25%、32%）、10-20（18%、25%、33%、21%）、10以下（27%、50%、0%、16%）となっている。年度によってばらつきがあるが、満足できた授業の数が30以下の割合が高い。満足できた授業の数が30以上については、平成23年度の落ち込みが顕著であるが、その後一定数確保できている。満足した主な理由は、「専門分野の実力がついた」（55%、100%、75%、37%）、「親切で丁寧な授業であった」（91%、100%、58%、74%）、「教員の熱意が感じられた」（36%、25%、42%、21%）であった。満足できなかった授業の数は、40以上（9%、0%、0%、0%）、30-40（9%、0%、0%、16%）、20-30（0%、0%、8%、11%）、10-20（36%、0%、17%、32%）、10以下（45%、100%、75%、42%）となっている。満足しなかった主な理由は、「実力がつかなかった」（18%、50%、67%、42%）、「一方的な押し付け授業だった」（27%、50%、33%、32%）、「内容が体系的でなく断片的だった」（45%、25%、17%、5%）であった。

物理は基礎からの積み重ねが大事であり、主観的なものさしより、純粋に実力がついたか否かで満足度が測られているように見えるのはもっともな傾向である。

【標準履修モデル】

基礎科目の内容や難易度について肯定的な回答は各年度75%以上である。また専門科目の内容や難易度については（82%、75%、92%、74%）であり、こちらも多くの学生が肯定的にとらえている。教育目標と履修モデルについて合致していたかについては肯定的な回答が（64%、75%、83%、79%）と増加傾向にあるが、そもそも履修案内を参照せずに回答するケースが多いと予想される。

【専門科目への要望】

「より高度な授業内容を実施してほしい」、「実験実習や野外調査の時間を増やしてほしい」という要望に対しては、どの年度もそう思う者とそう思わない者がだいたい半分ずついる。また「難しい授業が多すぎるので、もう少しレベルを下げしてほしい」という要望に対し、肯定的な回答は(18%、25%、58%、42%)であり、今後の動向を注視したい。「社会に出て役立つことを授業に盛り込んでほしい」という要望に対しては、肯定的な回答が(27%、50%、42%、26%)あるものの、具体的な要望は人それぞれで対応は難しそうである。

【成績評価】

成績評価の方法が適切かについては、否定的な回答が(0%、75%、25%、32%)ある。原因は不明であるが、点数で評価する以上、少なくともレポート・定期試験において、同じ間違いでも学生により減点の度合が違うようなケースが生じないように注意しなければなるまい。

【授業改革】

授業科目数と内容が適切かについては、足りないという回答が(9%、25%、25%、5%)あった。受講者数の少ない授業科目もあり、単純に科目数を増やすのは現実的ではないが、内容の不足は、各授業の内容を見直すことである程度補えるであろう。また、もし極端に受講者数の少ない授業（基幹科目は除く）があれば、学生のニーズに応じて新規科目に変えていくことも考えられよう。

【アドバイザー教員制度】

アドバイザー教員の指導・支援が適切かについては肯定的な回答が(100%、100%、75%、89%)と良好であるが、否定的な回答が出始めているのも事実である。原因は不明であるが、面談、教職カルテ等、適切な対応が要求される場面も増えてきており、注意を要する。

【自由意見】

意見がないのが常であるが、平成24年度には地方国立ならではの特長についての意見が、平成26年度には自由な校風や授業のあり方に関する意見が寄せられた。

【分析と今後の教育へのフィードバック】

自由意見欄で述べられているように、「地方国立ならではの教育方針、コミュニケーションの密度、風土が活かされている」とすれば大変喜ばしいことである。長きにわたり、好奇心旺盛かつ吸収力豊かな学生が教員と密に相互作用を繰り返してきた成果であろう。一方で、距離が近すぎて教員の側に甘えが生じ、「実力がつく」手助けを怠ったり、「成績評価の方法が適切でない」と指摘されることのないよう努める必要がある。また、予定されている改組が、カリキュラムや人員の削減を通じて、これまでに築き上げてきた絶妙な学生・教員の距離感を壊すことのないよう願う次第である。

【化学コース】

平成23-25年度の3年間のアンケート結果を比較・検討した。各年度の回答率は、H23:100% (14/14) , H24 : 94% (15/16) , H25 : 24/21 (114%) , H26 : 19/15 (127%)であった。

以下で各年度のパーセントを（23年度，24年度，25年度，26年度）で表すことにする。

【全般的な質問】

“高知大での勉学や生活で満足できたもの”の1位と2位は，3年間を通じて「友人との出会い」(86%，80%，58%，74%)，「研究室での卒研やゼミ」(79%，67%，46%，37%)であり，研究室での研究活動の評価が減少傾向である。また，「授業」(29%，27%，21%，16%)も，減少傾向にある。さらに，“高知大での勉学や生活で満足できなかったもの”のうち，「授業」は36%，13%，42%，58%となっており，年度ごとにばらつきはあるものの，恒常的に40%以上はあるように思われる。授業アンケートやFDなど授業改善に向けたより一層の努力が求められる。また，注意を要する傾向として，「先生とのトラブル」(14%，13%，7%，0%)，「友人とのトラブル」(0%，20%，4%，5%)はほとんどないが，「親からの自立」の割合が21%と増加している。一見よい結果のようであるが，人間関係をうまく構築できない学生が人との関わりを避けている結果とすると，アドバイザー教員制度等を通じたコミュニケーション作りなど，孤立化を防ぐ対策が望まれる。

“教育研究施設(学習環境)”についての満足度は，満足とほぼ満足を合わせると93%，93%，79%，64%であった。H25年度より15%以上減少していることは気がかりであるが，学習環境は十分に整っていると考えられる。“高知大学の就職支援活動”については，「満足できた」と「満足できなかった」の回答が，43%/36%，60%/20%，51%/41%，37%/16%であった。ここ数年の厳しい就職戦線を反映しての結果と思われるが，様々な就職支援活動への低い出席状況を考え合わせると，一部学生の他力本願的な就職活動にも問題があると思われる。“ボランティア活動への参加”について，「ある」(21%，53%，13%，32%)は，数値的にはそれほど高いとは言えないが，興味を持っている学生がいて，参加者すべてが満足している。化学コースの場合，演習・実験などに費やされる時間が多く，ボランティア活動に時間を割く余裕がないのかもしれないが，ボランティア活動の経験は満足している。

【受講科目の感想】

“満足できた授業”の数は40以上(21%，20%，17%，5%)，30-39(0%，7%，29%，11%)，20-29(29%，40%，13%，32%)，10-19(21%，27%，33%，21%)，9以下(29%，7%，8%，32%)となっている。年度によってばらつきがあるが，年度を経るごとに満足できた授業の数が減少傾向にある。“満足した理由”については，「親切で丁寧な授業であった」(57%，73%，67%，42%)，「専門分野の実力がついた」(43%，53%，58%，42%)，「教員の熱意が感じられた」(21%，20%，33%，16%)となっており，26年度は教員への評価が低くなった。“満足できなかった授業”の数は，40以上(29%，0%，0%，11%)，30-40(7%，0%，13%，5%)，20-30(14%，0%，20%，

32%), 10-20(0%, 40%, 13%, 21%), 10以下(50%, 60%, 54%, 32%)と減少している。“満足しなかった理由”のうち「不親切でわかり難い授業」(57%, 73%, 58%, 58%), 「一方的な押し付け授業だった」(50%, 47%, 38%, 58%), 「実力がつかなかった」(43%, 33%, 33%, 16%)などと減少してなっており, 満足した理由と反するような結果であるがさらなる改善は必要である。

【標準履修モデル】

“基礎科目および専門科目の内容や難易度”について, いずれも肯定的な回答が, 毎年80%を超えている。“教育目標と履修モデルについて合致していたか”についても, 肯定的な回答(78%, 87%, 83%, 90%)が得られている。

【専門科目への要望】

“より高度な授業内容を実施してほしい”という要望に対して, より高度な授業を積極的に望む回答をした人は21%, 0%, 13%, 16%であった。また“難しい授業が多すぎるので, もう少しレベルを下げてほしい”という要望に対して, 否定的な人は78%, 74%, 75%, 69%であり, 全体的に現状の授業レベルを望む人が多いようである。“実験実習の時間を増やしてほしい”や“社会に出て役立つことを授業に盛り込んでほしい”という要望に対して, それぞれ希望する人は72%, 60%, 54%, 53%や57%, 53%, 15%, 57%であり, コミュニケーション能力の向上など具体的な要望に関する記述が多くあった。いずれも実践的な要望を望んでいる。

【成績評価】

“成績評価”については, 肯定的な回答が(86%, 87%, 92%, 63%)と26年度大きく減少しており, 各授業で成績評価の明確な基準を学生に伝えることが重要と思われる。

【授業改革】

“授業科目数と内容の適切さ”については, 肯定的な回答(93%, 100%, 79%, 84%)が大勢を占めていた。否定的回答の中で多かったのが, 26年度も物理化学系授業が少ないというものであった。

【アドバイザー教員制度】

“アドバイザー教員制度”については, 肯定的な回答が96%, 87%, 88%, 89%であり, 多くの学生がアドバイザー教員制度の必要性を感じているようである。また, “総合的に考えて, 高知大学で学んでよかった”とする肯定的な意見が85%であった。

【自由意見】

理学部の教育や高知大学理学部全般について, 意見は寄せられていない。

【分析と今後の教育へのフィードバック】

ここ数年来, 教員のFDおよび授業アンケートやピア・サポートの実施に加え, 老朽化した学生実験室の改修工事などソフト&ハードの両面で教育環境の改善がなされているが, 改修後に入学している26年度学生は満足度が落ちている。また, 特に授業のレ

ベルや進め方について、「親切で丁寧な授業であった」、「専門分野の実力がついた」、「教員の熱意が感じられた」など肯定的な回答が落ちており、研究室での卒論やゼミに対する満足度も低い。また授業について「不親切でわかり難い授業」、「一方的な押し付け授業だった」、「実力がつかなかった」と否定的な回答を寄せる学生も存在しており、26年度の顕著な変化である。これらを総合的に判断すると学生の勉学意欲を高め、学習習慣を身に付けさせることで、学力のボトムアップを図るとともに、現状の授業レベルを維持しながら、深淵な知識を獲得できる授業を展開し、より高度なレベルをめざす学生の要望にこたえる工夫も必要である。また、新たな傾向として教員や友人との人間関係に悩む学生が少ないが、親からの自立の割合が高くなってきており、大学生活に適応出来ず孤立化しがちな学生が増えてきているのではないかと危惧される。孤立した学生を早期に発見し、救済する支援システムの構築が必要になってきているようだ。

【生物科学コース】

【回収状況】

卒業生 65 名中、26 名から回収された。回収率は 40%で、昨年度と比較し 25 ポイントも減少していた。

【全般的な質問】

・高知大学での勉学や生活で満足できたもの

回答の多い順に「友人との出会い」69%、「研究室での卒研やゼミ」50%、「先生との出会い」31%、「課外活動」31%、「親からの自立」31%、「授業」27%、「その他」0%。

「友人との出会い」が 69%であり、概ね満足できる人間関係の中で学生生活を送ったものと考えられる。しかし、平成 24 年度が 92%、平成 25 年度が 79%であったことから低下傾向が認められた。「研究室での卒研やゼミ」の満足度は 50%であるが、平成 24 年度が 68%、平成 25 年度が 77%であったことから本年度はかなり低い値であると言える。「先生との出会い」は 31%で、これも平成 24 年度の 66%、平成 25 年度の 49%と比較してもかなり低くなっていた。「授業」は 27%で、平成 24 年度の 42%ほどではないものの、平成 25 年度の 23%からわずかに上昇していた。

・高知大学での勉学や生活で満足できなかったもの

回答の多い順に「授業」31%、「課外活動」19%、「研究室での卒研やゼミ」12%、「先生との出会い」8%、「親からの自立」4%、「友人との出会い」0%、「その他」0%。

「授業」は 31%で最も高かったが、平成 24 年度は 37%、平成 25 年度は 38%であったことからやや低くなっていた。しかし、今回のアンケートでは学生側の授業への取り組む姿勢などが調査されていないため、評価は困難である。

・教育研究施設（学習環境）への満足

「満足できた」15%、「ほぼ満足できた」73%、「あまり満足できなかった」8%、「満足でき

なかった」4%.

「満足できた」と「ほぼ満足できた」と感じた学生は88%と、概ね学生の要求を満たしているものと考えられる。

・高知大学の就職支援活動への満足

「満足できた」8%、「ほぼ満足できた」58%、「あまり満足できなかった」21%、「満足できなかった」13%

「満足できなかった」と「あまり満足できなかった」と感じた学生は33%で、平成24年度の13%、平成25年度の23%と上昇傾向にある。就職室とのさらなる連携も必要であろう。

・在学中に高知大学公認あるいは非公認のボランティア活動への参加について

「ある」27%、「ない」73%

ボランティアに参加した学生の割合は例年通りである。

・ボランティア活動に参加した学生への満足

「満足できた」29%、「ほぼ満足できた」57%、「あまり満足できなかった」14%、「満足できなかった」0%

ボランティアに参加した学生の86%は満足していることから、概ね良好と言える。

【受講科目の感想】

・満足できた授業数

「40以上」8%、「30～39」23%、「20～29」46%、「10～19」12%、「9以下」12%

満足できた授業数20～40以上で77%となった。平成24年度の52%や平成25年度の60%と比較しても高い値で、概ね満足しているものと思われる。

・満足した理由

「専門分野の実力がついた」62%、「親切で丁寧な授業であった」58%、「教材を工夫していた」4%、「教員の熱意が感じられた」19%、「授業が一方向的でなかった」12%、「授業内容が斬新だった」15%、「その他」0%

「専門分野の実力がついた」62%や「親切で丁寧な授業であった」58%と授業内容そのものには満足していることが伺える。しかしながら「教材を工夫していた」4%と低く、さらなる工夫が必要であろう。

・満足できなかった授業数

「40以上」0%、「30～39」4%、「20～29」12%、「10～19」35%、「9以下」50%

満足できなかった授業数20～40以上は16%で、概ね肯定的と受けとめてよいものと思われる。

・満足できなかった理由

「実力がつかなかった」39%、「不親切でわかり難い授業だった」39%、「教材の工夫が見られなかった」15%、「教員の熱意が感じられなかった」12%、「一方的な押し付け授業だった」31%、「内容が古すぎた」0%、「内容が体系的でなく断片的だった」8%、「その他」8%

「実力がつかなかった」39%、「不親切でわかり難い授業だった」39%、「一方的な押し付け授業だった」31%が上位となっていた。平成25年度の上位が「不親切でわかり難い授業だった」58%、「一方的な押し付け授業だった」46%、「実力がつかなかった」38%であったが、講義内容や方法等が大幅に変更された授業は少ないことから、学生の主観や授業への取り組む姿勢の違いなど、年度による学生気質の違いを反映しているのではないかと考えられる。

【標準履修モデル】

・基礎科目は、授業内容や難易度において適切に配置されていたか

「配置されていた」23%、「概ね配置されていた」77%、「あまり配置されていなかった」0%、「配置されていなかった」0%

「配置されていた」「概ね配置されていた」との回答で100%を占めたことから、基礎科目の配置には大きな問題はないものと思われる。

・専門科目は、授業内容や難易度において適切に配置されていたか

「配置されていた」19%、「概ね配置されていた」77%、「あまり配置されていなかった」4%、「配置されていなかった」0%

「配置されていた」「概ね配置されていた」との回答で96%を占めたことから、専門科目の配置にも大きな問題はないものと思われる。

・教育目標は標準履修モデルと合致していたか

「合致していた」12%、「概ね合致していた」85%、「あまり合致していなかった」4%、「合致していなかった」0%

「合致していた」「概ね合致していた」との回答で96%に達していたことから、教育目標と標準履修モデルは十分合致していたものと思われる。

【専門科目への要望】

・「より高度な授業内容を実施してほしい」という要望に対するあなたの意見

「全くそのとおりである」15%、「概ねそのとおりである」54%、「あまりそう思わない」27%、「全く思わない」4%

「全くそのとおりである」「概ねそのとおりである」との回答が69%で、多くの学生がより高度な授業を望んでいたことがわかる。

・「難しい授業が多すぎるので、もう少しレベルを下げしてほしい」という要望に対するあなたの意見

「全くそのとおりである」0%、「概ねそのとおりである」31%、「あまりそう思わない」54%、「全く思わない」15%

「全くそのとおりである」「概ねそのとおりである」と回答した学生は31%で、平成24年度の33%や平成25年度の25%と同程度であった。

・「実験実習や野外調査の時間を増やしてほしい」という要望に対するあなたの意見

「全くそのとおりである」31%、「概ねそのとおりである」58%、「あまりそう思わない」8%、「全く思わない」4%

増加を求める回答が89%と高い。平成24年度も79%、平成25年度も84%であった。しかし、教員数と学生数のバランスもあり、現状での対応は難しい。特に野外実習は安全性確保の問題もあるため、大人数での実習は安易に導入できない。

・「社会に出て役立つことを授業に盛り込んでほしい」という要望に対するあなたの意見

「全くそのとおりである」23%、「概ねそのとおりである」27%、「あまりそう思わない」50%、「全く思わない」0%

社会に出て役立つ授業を求める回答は50%であった。現在進行中の「理工学部」への改組により、これらの要望は一定程度解消されるものと思われる。ただし、具体的な例として「人とのコミュニケーションする能力」、「礼儀、メールの送り方、付き合い方」のように専門分野と比較的関係の少ない事項も挙げられていることから、むしろ本学の共通教育と連携した授業内容の充実を検討してみることも必要であろう。

【成績評価】

・成績評価の方法は適切であったか

「適切であった」31%、「概ね適切であった」54%、「適切でない授業もあった」15%、「適切でない授業がたくさんあった」0%

概ね妥当な評価がなされていると考えられるが、「適切でない授業もあった」15%（4名）については今後の検討する必要がある。

【授業改革】

・授業科目数と内容は適切か

「適切である」23%、「概ね適切である」69%、「足りない」4%、「多すぎる」4%
適切であると考えている学生は92%を占め、概ね妥当であると思われる。

【アドバイザー教員制度】

・アドバイザー教員の指導・支援は適切であったか

「適切であった」50%、「概ね適切であった」46%、「あまり適切でなかった」4%、「適切で

なかった」0%

適切だと感じている学生は 96%を占めていることから大きな問題はないものと考えられる。

【総合的に考えて高知大学理学部で学んでよかったか】

「とてもよかったと思う」27%、「概ねよかったと思う」65%、「あまりよかったと思わない」8%、「よかったと思わない」0%

肯定的評価が 92%を占めていたことから、概ね問題ないものと思われる。

【教育全般についての意見】

自由記述に様々な意見が寄せられた。中でも「アドバンスコースに比べてジェネラルコースは楽すぎると思うので、取らなければならない授業を大幅に増やすか、発表の機会を2回以上するなどの対策を立ててほしい」や「簡単な講義と難しい（不親切で分かりづらい）講義の差が激しすぎると思います」については今後の課題としたい。

【分析と今後の教育へのフィードバック】

本年度卒業生の特徴として、まず「研究室での卒研やゼミ」50%、「先生との出会い」31%と例年より低い結果となっていたことが挙げられる。本年度の生物科学コース卒業生は 65名と多く、アドバンスコースに進み卒業研究を行った卒業生は 57名にも達する。このため、多くの研究室で受け入れ可能人数の上限に達してしまい、各教員がきめ細かな個別指導を行い難い年度であったことが影響しているものと考えられる。この問題について、現在の組織・カリキュラム体制での解決は難しいものの、可能な限りコース内でより良い対策を模索していきたい。

授業について、今回のアンケートからは現状で概ね問題はないものと考えられる。しかし、「教材を工夫していた」4%に現れているように、教材のさらなる充実・工夫が必要であろう。また、より高度な授業内容を求める声が多いものの、一方で「専門分野の実力がついた」62%、「授業内容や難易度において適切に配置されていた」96%、「教育目標は標準履修モデルと合致していた」95%などのデータもあることから、全ての授業で内容の高度化を行う必要はないものと思われる。基本的に授業内容は変更せず、高度な話題・最近の研究動向などをこれまで以上に盛り込むなど、学生に対しさらなる学問的な刺激を与えることも重要であろう。

毎年のように実験実習や野外調査の時間を増やしてほしいとの要望も多いが、現在すでに9つの実験実習を実施しておりこれ以上の増加は困難である。また、受講生数の少ない実験実習もあることから、学生の受講し易い時期での実施等、運用面での改善も検討する必要もあろう。

なお、本アンケートの回収率が年々低下傾向にあり、なんらかの対策が必要である。

【地球科学コース】

平成 26 年度は、卒業予定者 10 名中 8 名（回収率 80%）からアンケートが回収され、平成 25 年度の 57%より回収率は向上、理学部全体の回収率を上回った（地球科学コース第一期卒業生を輩出した平成 22 年度以降、回収率は 100%→65%→93%→57%→80%と変動）。

【全般的な質問】

「高知大学における勉学や生活で満足できたもの」として、8 名中 7 名が「研究室での卒研やゼミ」「先生との出会い」「友人との出会い」をあげており、特に「先生との出会い」をあげた比率は理学部全体に比べ高い傾向にあった。これまでの 2 割～5 割程度に比べても顕著に高く、少人数ながら教員や同級生との良好な関係がうかがえる。一方「満足できなかったもの」としては 8 名中 3 名があげた「親からの自立」が最も多く理学部全体より高い傾向にある。「授業」あげた学生も 4 分の 1 に相当する 2 名いたが、理学部全体の 3 分の 1 と比べ低かった。これは例年と同じ傾向である。

「教育研究施設」については、全員が「満足できた」または「ほぼ満足できた」と回答しており、満足度は他コースや過去のアンケート結果に比べても高い結果を得た。耐震補強により建物が改修（平成 21 年）されて以降入学した学生であり、コアセンター機器材に加え、補正予算により導入された大型器機類（FE-SEM、マイクロフォーカス XRF、ソフト X 線、デジタル顕微鏡など）を卒業論文等で活用できたことが要因かもしれない。

「就職支援活動」に対しては、「ほぼ満足できた」が 4 分の 3、「あまり満足できなかった」が 4 分の 1 と、理学部の傾向と特に差はない。しかし過去のデータと比較すると、何らかの不満をかかえた学生の比率（平成 23 年度 7 割、平成 24 年度 3 割）は減少傾向にあり、状況が改善されてきたことが示唆される。

「ボランティア活動」への取り組みは 8 名中 1 名と、あまり積極的ではないものの、活動に「ほぼ満足」していた。

【受講科目の感想】

「満足できた授業の数」は幅が広く、傾向は理学部全体と差はない。「満足できなかった授業の数」は比較的少なめで、30 以上と答えた学生はいなかった。「専門分野の実力がついた」「教員の熱意が感じられた」といった場合に満足感をおぼえ、「不親切でわかり難い授業だった」「一方的な押しつけ授業だった」場合に不満を覚えることは理学部共通の現象である。

アンケートでは「理学部開講授業の印象」について尋ねているが、自由記述に「教養の授業」（数学コース）、「分野（物理）の知識」（地球科学コース）といった言葉が登場することから、共通教育科目や他コース開講専門科目を含んで学生は評価していることが明らかである。学生の所属コース毎に分析するより、学部全体で評価するなど、アンケート様式や評価分析方法の改善が必要ではなからうか。

【標準履修モデル】

「基礎科目」の「授業内容や難易度」は、8 名中 7 名の学生が、また「専門科目」につい

では全ての学生が、「適切」ないし「概ね適切」な配置」と好意的な評価をしている。

【専門科目への要望】

「より高度な授業内容を実施してほしい」との要望に対しては賛否両論意見が拮抗、「難しい授業が多すぎるの、もう少しレベルをさげてほしい」との要望に対しては「あまりそう思わない」が4分の3を占め、「概ねそのとおりである」(8名中2名)を大きく上回った。「実験実習や野外調査の時間を増やしてほしい」という要望に対しては6割以上(8名中5名)が「全くそのとおりである」「概ねそのとおりである」と答えたが、「社会に役立つことを授業に盛り込んでほしい」という要望に対しては8名中5名が「あまりそう思わない」と否定的あり、例年と同じ傾向を示した。

【成績評価】

「成績評価の方法は適切」か?との問いに、「適切」または「概ね適切」と答えた学生が4分の3をしめた。

【授業改革】

「授業科目数と内容」については全ての学生が「適切」(4名)または「概ね適切」(4名)と答え、「適切」と答えた学生の比率は他コースに比べ最も高かった。

【アドバイザー教員制度】

全ての学生が「アドバイザー教員の指導・支援」が「適切であった」と答えており、教員と学生の良好な関係を裏付ける結果が得られた。

高知大学理学部で学んだことに対して全ての学生が、「とてもよかった」または「おおむね良かった」と答えており、総合的に満足して卒業したことがうかがえる。

【自由記述】

「情報科学と地球科学コースが卒論必修なのはなぜだろう?」といった疑問や、「卒業研究に取り組む姿勢において理学部のコースごとに差が大きすぎる」という指摘があった。また、「高知大学の地球科学コースにおける設備は、他の大学に負けない(特にコアセンター)」ので「もっとアピールすべき」という指摘もあった。

【分析と今後の教育へのフィードバック】

地球科学コースを主専攻に選択する学生の数は、改組後低迷をつづけている。しかし学生の満足度は年々向上し、理学部全体では大学院進学者が激減するなか、地球科学コースでは相対的に高い大学院進学率を維持しつづけている。学生数が少ない分、学生の教育研究環境の質は向上し、学生と教員の信頼関係成就が学生の満足度向上につながってきたことを示唆するアンケート結果となった。

地球科学コースでは卒業論文に取り組むことを通じ学士力を完成させるカリキュラムを

掲げ、設備・施設・予算・人材に限られるなか、コアセンターや他コース教員と連携し地球科学コースのカリキュラムを運営してきた。また、機会あるごとに共有設備の整備に努め、コース内外の教育・研究に提供してきた。今後も、現状に甘んずることなく各種連携を強化、対外的にも積極的にアピールする努力を通じ、卒業後も学生が胸をはって羽ばたける教育研究環境を提供してゆきたい。

【情報科学コース】

平成 26 年度 22 名の卒業生数で回答は 7 名、回答率は 32%である。

【全般的な質問】

勉学や生活で「満足できたもの」は、回答の多い順に「友人との出会い」、「研究室での卒研やゼミ」、「先生との出会い」、「課外活動」、「授業」である。これらから教員と学生との人間関係が大変良好であると推察される。また、「満足できなかったもの」の回答順では「授業」、「課外活動」、「親からの自立」、よりも「研究室での卒研やゼミ」が少数であることから推察される。「教育研究施設（学習環境）への満足」では、「満足」、「ほぼ満足できた」が大半であり、「あまり満足できなかった」はわずかである。このことから、本コースが有効な教育施設拡充ができたと推察される。

「就職支援活動は満足か」は、半数が「満足」「ほぼ満足」、半数が「あまり満足できなかった」「満足できない」である。

「公認・非公認のボランティア活動への参加」は、「ある」と「ない」がほぼ半分であったが、参加者の満足度は高い。

【受講科目の感想】では、受講科目の「満足した科目数」は回答 20 - 40 以上が多数である。

理由は、「親切で丁寧な授業であった」、「専門分野の実力がついた」、「教員の熱意が感じられた」、「教材を工夫していた」、「授業が一方向的でなかった」など様々な点で教員が専門教育に工夫を凝らしていると推察される。

【標準履修モデル】

「基礎科目は、内容・難易度で適切に配置しているか」では、「概ね配置」されていた以上が多数である。

「教育目標と標準履修モデルとの合致」は、「概ね合致」以上が多数である。

【専門科目への要望】

「より高度な授業内容の実施への意見」では、回答の多い順に「余りそう思わない」が大半を占めた。

【成績評価】

「成績評価の方法は適切か」は、「概ね適切」、「適切」が多数であった。

【授業改革】「各学科開設の授業科目数・内容は適切か」は、「概ね適切」が多数である。

【アドバイザー教員制度】

「アドバイザー教員の指導・支援は適切か」は、「適切」が多数である。

【分析と今後の教育へフィードバック】

アンケート結果と分析から、次のことがわかった。

- 1)教員と学生との人間関係は、良好であり、今後もこの関係を保つ努力が必要である。
- 2)教育研究施設（学習環境）も満足されており、維持に努める必要がある。
- 3)就職支援活動は、半数に不満があるため、改善が必要である。
- 4)公認・非公認のボランティア活動へは学生のほとんどが参加していない。
- 5)情報科学コース教員は、ていねいで熱意を持つ専門教育を今後も維持する。
- 6)基礎科目の内容・難易度と配置は適切である。
- 7)専門科目の内容・難易度と配置は適切である。
- 8)成績評価は適切である。
- 10)学科開設科目数適切である。
- 11)アドバイザー教員制度が良好に機能している。

以上のアンケート結果および分析結果から、現状の教員と学生との人間関係、教育施設の拡充、就職支援体制を保ちつつ、また、ていねいに熱意を持った専門教育をさらに充実させる努力に加え、授業への多様なニーズ（高度な内容、社会で役立つ内容）を満たす工夫に努力して、多様な学生の学習欲に応じた教育内容の提供を目指していく。

【応用化学コース】

平成23-25年度の3年間のアンケート結果を比較・検討した。各年度の回答率は、H23：79%（23/29）、H24：74%（20/27）、H25：25/30（83%）、H26：18/26（69%）であった。

以下で各年度のパーセントを（23年度、24年度、25年度、26年度）で表すことにする。

【全般的な質問】

“高知大での勉学や生活で満足できたもの”の1位と2位は、3年間を通じて「友人との出会い」（83%、85%、80%、72%）、「研究室での卒研やゼミ」（52%、90%、56%、50%）であり、研究室での研究活動に充実していることを示す結果が得られた。また、「授業」は39%、35%、20%、17%であった。H25年度に続き減少している。“高知大での勉学や生活で満足できなかったもの”のうち、「授業」は22%、25%、40%、44%であった。急増したH25年度と同程度となり授業に関する不満が増加している。また、例年「課外授業」（30%、35%、16%、16%）についても高い数値となっており、期待したような充実感が得られていない様である。

“教育研究施設（学習環境）”についての満足度は、満足とほぼ満足を合わせると92%、95%、88%、83%であり、学習環境は十分に整っていると考えられる。“高知大学の就

職支援活動”については、「満足できた」と「満足できなかった」の回答は61%/30%、70%/20%、68%/20%、6%/6%となった。H26年度の「ほぼ満足できた」72%という回答から経年の満足度に大きな変化はないと思われる。“ボランティア活動への参加”について、「ある」(26%, 20%, 24%, 28%)は、数値的にはそれほど高いとは言えない。応用化学コースの場合、特に4年生では卒業研究などに費やされる時間が多く、ボランティア活動に時間を割く余裕がないのかもしれないが、ボランティア活動の経験は満足している。

【受講科目の感想】

“満足できた授業”の数は40以上(13%, 15%, 4%, 0%), 30-39(17%, 25%, 28%, 22%), 20-29(26%, 5%, 44%, 33%), 10-19(30%, 50%, 20%, 28%), 9以下(13%, 5%, 4%, 17%)となっている。年度によってばらつきがあるが、全般的に年度を経るごとに満足できた授業の数が減少傾向にある。“満足した理由”については、「専門分野の実力がついた」(57%, 80%, 60%, 56%), 「親切で丁寧な授業であった」(65%, 50%, 52%, 39%), 「教員の熱意が感じられた」(35%, 35%, 32%, 28%)となっている。“満足できなかった授業”の数は、40以上(9%, 0%, 0%, 0%), 30-39(4%, 20%, 0%, 11%), 20-29(17%, 0%, 12%, 28%), 10-19(26%, 15%, 28%, 28%), 9以下(43%, 65%, 60%, 33%)となっている。“満足しなかった理由”のうち「不親切でわかり難い授業」(65%, 60%, 36%, 61%), 「一方的な押し付け授業だった」(43%, 45%, 16%, 28%), 「実力がつかなかった」(26%, 20%, 20%, 16%)などとなっており、より一層の努力が求められる。学生の講義に関する依存性が高く、自ら調べる学習の低下があるように感じられる。

【標準履修モデル】

“基礎科目および専門科目の内容や難易度”について、肯定的な回答が、それぞれ毎年90%, 80%, 84%を超えている。“教育目標と履修モデルについて合致していたか”についても、肯定的な回答(92%, 95%, 96%, 83%)が得られている。

【専門科目への要望】

“より高度な授業内容を実施してほしい”という要望に対して、より高度な授業を積極的に望む回答をした人は13%, 25%, 28%, 6%であった。また“難しい授業が多すぎるので、もう少しレベルを下げてほしい”という要望に対して、否定定的な人は83%, 95%, 76%, 78%であり、全体的に現状の授業レベルを望む人が多いようである。“実験実習の時間を増やしてほしい”や“社会に出て役立つことを授業に盛り込んでほしい”という要望に対して、それぞれ希望する人は60%, 85%, 56%, 66%や69%, 40%, 44%, 44%であり、コミュニケーション能力の向上など具体的な要望に関する記述が多くあった。

【成績評価】

“成績評価”については、肯定的な回答が83%, 95%, 96%, 72%となっており、概ね適切な評価が行われているといえるが、“適切でない授業もあった”が22%となっている点が気になる。

【授業改革】

“授業科目数と内容の適切さ”については、肯定的な回答(96%, 85%, 96%, 86%)が大勢を占めていた。否定的な回答の多くは、物理化学、無機化学の充実を要望する前向きなものであった。

【アドバイザー教員制度】

“アドバイザー教員制度”については、肯定的な回答が92%, 100%, 88%, 94%であり、多くの学生がアドバイザー教員制度の必要性を感じているようである。また、“総合的に考えて、高知大学で学んでよかった”とする肯定的な意見が100%であった。

【自由意見】

授業等について、いくつかの自由意見が寄せられた。

【分析と今後の教育へのフィードバック】

ここ数年来、教育熱心な若い先生方を迎え入れ、老朽化した学生実験室の改修工事が進むなど、教育環境の改善がなされており、一定の効果が得られているように思われる。特に授業のレベルや進め方について、「親切で丁寧な授業であった」、「専門分野の実力がついた」、「教員の熱意が感じられた」など肯定的な回答が大勢を占めており、研究室での卒論やゼミに対する満足度も高いが、減少気味である。一方、授業のレベルアップや物理化学系授業の充実を求める要望も寄せられていた。また、授業について「不親切でわかり難い授業」、「一方的な押し付け授業だった」、「実力がつかなかった」と否定的な回答を寄せる学生も存在しており、学力の二極化が進んでいるように思われる。成績不振学生については早期に発見し、勉学意欲を高め、学習習慣をしっかりと身に付けさせる早期ケアの必要性が増している。さらに、現状の授業レベルを維持しながら、高度な知識と応用力を獲得できる授業を展開し、意識の高い学生の要望にこたえる工夫も必要である。

【海洋生命・分子工学コース】

[26年度の数字に続いて 25年度の数字を括弧内に示した]

卒業予定者 45(37)名のうち 25(26)名から回答を得た。回答率は 56(79)%である。昨年と比べて 20%以上低下した。副専攻ジェネラルの学生に対するアンケート回収が不十分であったことによる為であると思われる。

【全般的な質問】

大学で満足したこととしては、「研究室での卒研やゼミ」が 88%(65)、「友人との出会い」

が 72%(81)と上位となっていた。一方、満足できなかったこととして「授業」が 28%(27)で上位であったが、満足したと答えた学生と同率であった。後述の設問 8～11 の結果をみるかぎり満足した授業の数のほうが満足できなかった授業よりも多いことがうかがえる。それらの結果もふまえると、満足できない授業の方が印象にのこりやすいのではないかと考えられる。

教育研究施設(学習環境)については「満足できた」か「ほぼ満足できた」が合計で 92%(77)と非常に高い数字となった。高知大学の設備の充実が、学生たちに支持されている結果である。また一方で、就職支援に関して「満足できた」か「ほぼ満足できた」が、合計で 68%(65)となっていた。

【理学部に関する質問】

満足できた授業の数に関して、25年度は「10～20」が 35%、「20～30」が 31%であったのに対して、26年度は「10～20」が 20%、「20～30」が 48%となった。「20～30」の分布が多くなっているのが特徴的である。満足した理由については「専門分野の実力がついた」が 88% (69%)、「親切で丁寧」が 60% (50%)が他コースと比べて多い傾向にある。満足できなかった授業の数については、「10～20」が 28%(35)、「10 以下」が 48%(50)と、昨年と同様に大半を占めた。満足できなかった理由については「不親切でわかりにくい」が 58%となり、上位を占めた。

【標準履修モデル】

基礎科目については「適切に配置されていた」「概ね適切に配置されていた」と答えた学生が 36%(35)と 48%(65)であり、肯定的な回答結果であった。専門科目についても「適切に配置されていた」「概ね適切に配置されていた」と答えた学生が 44%(31)と 56%(65)であり、同様な傾向の回答であった。また、コースの教育目標と標準履修モデルが合致していたかとの問いには、「合致していた」「概ね合致していた」が 12%(19)と 84%(77)であり、十分な結果である。「より高度な授業をしてほしい」という要望に対する意見としては、「全くそのとおりである」と「概ねそのとおりである」が 20%(19)と 44%(46)であったことと、「難しい授業が多すぎるので、もう少しレベルを下げてほしい」という要望は、「あまりそう思わない」が 60%、「全く思わない」が 16%であったことから、授業のレベルを上げることも検討課題として挙げられる。「実験実習の時間を増やしてほしい」という要望に対する意見としては、「全くそのとおり」あるいは「概ねそのとおり」と答えた学生は、20%(31)と 28%(31)であり約半数が実験をふやしてほしいと考えている。「社会で役立つことを授業に増やしてほしい」という要望に対する意見としては、「全くそのとおりである」と「概ねそのとおりである」が 24%(35)と 32%(35)であり、社会で役立つ応用的な授業の増加が望まれている。

【成績評価・授業改革・アドバイザー制度】

成績評価の方法については、「適切であった」「概ね適切であった」と答えた学生は、24%

(23)と 56%(50)であり、学生の自己評価と一致する、昨年と同様の傾向であった。理学部が開設している授業科目数と内容に関しては、「適切である」「概ね適切である」答えた学生は、40%(35)と 52%(65)であった。アドバイザー教員の指導・支援については「適切であった」「概ね適切であった」と答えた学生は、58%(80)と 31%(20)であり、この制度が十分に浸透している結果と考えられる。

【分析と今後の教育へのフィードバック】

研究室での卒研やゼミと友人との出会いが、大学で満足したこととしてのアンケートで上位を占めた。この傾向を維持するためにも、積極的に卒論生を研究室に受け入れて、充実した卒業実験の実施が望まれる。理学部に関するアンケートでは、授業の満足度は良好であるが、満足しなかった理由を踏まえた自助努力が必要とされる。標準履修モデルは、基礎科目と専門科目ともに肯定的である。今後の授業の質の向上が期待されており、この点を中心として改善に取り組む必要があると考えられる。さらに社会で役立つ授業の要求が少なからずあることから、可能な範囲で対応しこのような要望に沿った授業内容の改革が求められる。アドバイザー制度は順調に機能している様子であり、この制度の順調な継続が望まれる。

II. 集計結果

【所属】

1. あなたの所属するコースを下記より選んでください。
 - A. 数学（数理科学）コース
 - B. 物理科学（物質基礎科学）コース
 - C. 化学コース
 - D. 生物科学コース
 - E. 地球科学（地球史環境科学）コース
 - F. 情報科学コース
 - G. 応用化学（物質変換科学）コース
 - H. 海洋生命・分子工学（生体機能物質工学）コース
 - I. 災害科学（防災科学）コース

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	計
卒業者数	53	20	15	65	10	22	26	45	17	273
回収件数	42	19	19	26	8	7	18	25	16	180
回収率(%)	79	95	127	40	80	32	69	56	94	66

【全般的な質問】

2. 高知大学での勉学や生活で満足できたものを下記より選んでください。（複数回答可）
 - A. 授業
 - B. 研究室での卒研やゼミ
 - C. 先生との出会い
 - D. 友人との出会い
 - E. 課外活動
 - F. 親からの自立
 - G. その他

	A	B	C	D	E	F	G
数学(数理科学)コース	17	24	17	36	12	12	1
物理科学(物質基礎科学)コース	5	14	8	11	5	4	1
化学コース	3	7	3	14	5	8	1
生物科学コース	7	13	8	18	8	8	0
地球科学(地球史環境科学)コース	4	7	7	7	3	2	0
情報科学コース	1	5	4	6	2	0	0
応用化学(物質変換科学)コース	3	9	5	13	5	5	0
海洋生命・分子工学(生体機能物質工学)コース	7	22	11	18	6	7	0
災害科学(防災科学)コース	5	13	9	11	9	5	1
合計	52	114	72	134	55	51	4
合計(%)	29	63	40	74	31	28	2

○物理科学(物質基礎科学)コース

・自由度

○災害科学(防災科学)コース

・多様な考え方に触れた。

3. 高知大学での勉学や生活で満足できなかったものを下記より選んでください。(複数回答可)

A. 授業

B. 研究室での卒研やゼミ

C. 先生とのトラブル

D. 友人とのトラブル E. 課外活動 F. 親からの自立

G. その他

	A	B	C	D	E	F	G
数学(数理科学)コース	15	3	0	0	13	5	4
物理科学(物質基礎科学)コース	5	1	0	4	3	3	2
化学コース	11	3	0	1	3	4	0
生物科学コース	8	3	2	0	5	1	0
地球科学(地球史環境科学)コース	2	0	0	1	2	3	0
情報科学コース	1	1	0	0	2	2	0
応用化学(物質変換科学)コース	8	0	0	0	3	5	1
海洋生命・分子工学(生体機能物質工学)コース	7	2	0	0	5	3	2
災害科学(防災科学)コース	3	0	0	1	2	4	0
合計	60	13	2	7	38	30	9
合計(%)	33	7	1	4	21	17	5

○数学 (数理科学)コース

・24 時間開放している自習室が欲しかった (21 時では早い)

○海洋生命・分子工学 (生体機能物質工学) コース

・生協や食堂の値段が高い。

4. 教育研究施設 (学習環境) は満足できるものでしたか。

A. 満足できた

B. ほぼ満足できた

C. あまり満足できなかった

D. 満足できなかった

	A	B	C	D
数学(数理科学)コース	11	22	6	3
物理科学(物質基礎科学)コース	7	9	3	0
化学コース	6	6	6	1
生物科学コース	4	19	2	1
地球科学 (地球史環境科学)コース	4	4	0	0
情報科学コース	1	5	1	0
応用化学 (物質変換科学)コース	2	13	3	0
海洋生命・分子工学 (生体機能物質工学)コース	7	16	1	1
災害科学 (防災科学)コース	6	9	1	0
合計	48	103	23	6
合計 (%)	27	57	13	3

5. 高知大学の就職支援活動は満足できるものでしたか。

A. 満足できた

B. ほぼ満足できた

C. あまり満足できなかった

D. 満足できなかった

	A	B	C	D
数学(数理科学)コース	9	21	10	3
物理科学(物質基礎科学)コース	7	8	3	1
化学コース	7	5	4	3
生物科学コース	2	14	5	3
地球科学 (地球史環境科学)コース	0	6	2	0
情報科学コース	2	1	2	1
応用化学 (物質変換科学)コース	1	13	3	1
海洋生命・分子工学 (生体機能物質工学)コース	3	14	5	2
災害科学 (防災科学)コース	3	9	3	0

合計	34	91	37	14
合計 (%)	19	51	21	8

6. 在学中に高知大学公認あるいは非公認のボランティア活動に参加したことがありますか。

A. ある B. ない

	A	B
数学(数理科学)コース	15	27
物理科学(物質基礎科学)コース	8	11
化学コース	6	13
生物科学コース	7	19
地球科学(地球史環境科学)コース	1	7
情報科学コース	4	3
応用化学(物質変換科学)コース	5	13
海洋生命・分子工学(生体機能物質工学)コース	6	19
災害科学(防災科学)コース	9	7
合計	61	119
合計 (%)	34	66

7. 6で「ある」と答えた方に質問します。その活動は満足いくものでしたか。

A. 満足できた B. ほぼ満足できた
C. あまり満足できなかった D. 満足できなかった

	A	B	C	D
数学(数理科学)コース	5	10	0	0
物理科学(物質基礎科学)コース	4	2	2	0
化学コース	2	4	0	0
生物科学コース	2	4	1	0
地球科学(地球史環境科学)コース	0	1	0	0
情報科学コース	1	3	0	0
応用化学(物質変換科学)コース	2	3	0	0
海洋生命・分子工学(生体機能物質工学)コース	4	1	1	0
災害科学(防災科学)コース	6	3	0	0
合計	26	31	4	0
合計 (%)	43	51	7	0

続いて理学部に関する質問です。

【受講科目の感想】

8. あなたが在学期間中に受講した理学部開設授業（講義，実験，演習，セミナー）の印象をお聞きます。満足できた授業の数はおよそいくつでしたか。

A. 40以上 B. 30～39 C. 20～29 D. 10～19 E. 9以下

	A	B	C	D	E
数学(数理科学)コース	6	9	14	8	5
物理科学(物質基礎科学)コース	3	3	6	4	3
化学コース	1	2	6	4	6
生物科学コース	2	6	12	3	3
地球科学(地球史環境科学)コース	1	1	3	2	1
情報科学コース	2	1	3	0	1
応用化学(物質変換科学)コース	0	4	6	5	3
海洋生命・分子工学(生体機能物質工学)コース	1	3	12	5	4
災害科学(防災科学)コース	2	4	2	6	2
合計	18	33	64	37	28
合計(%)	10	18	36	21	16

9. 満足した理由を下記より選んでください。(複数回答可)

A. 専門分野の実力がついた B. 親切で丁寧な授業であった C. 教材を工夫していた
D. 教員の熱意が感じられた E. 授業が一方向的でなかった F. 授業内容が斬新だった
G. その他

	A	B	C	D	E	F	G
数学(数理科学)コース	24	22	4	11	6	7	0
物理科学(物質基礎科学)コース	7	14	3	4	2	3	0
化学コース	8	8	0	3	2	2	0
生物科学コース	16	15	1	5	3	4	0
地球科学(地球史環境科学)コース	6	3	2	4	2	2	0
情報科学コース	4	3	2	3	3	1	0
応用化学(物質変換科学)コース	10	7	2	5	4	0	1
海洋生命・分子工学(生体機能物質工学)コース	22	15	2	11	4	1	0
災害科学(防災科学)コース	9	9	1	2	2	1	0
合計	106	96	17	48	28	21	1
合計(%)	59	53	9	27	16	12	1

10. 理学部開設授業（講義，実験，演習，セミナー）のうち，満足できなかった授業の数はおよそいくつでしたか。

A. 40 以上 B. 30～39 C. 20～29 D. 10～19 E. 9 以下

	A	B	C	D	E
数学(数理科学)コース	4	1	7	11	19
物理科学(物質基礎科学)コース	0	3	2	6	8
化学コース	2	1	6	4	6
生物科学コース	0	1	3	9	13
地球科学(地球史環境科学)コース	0	0	2	2	4
情報科学コース	0	0	0	2	5
応用化学(物質変換科学)コース	0	2	5	5	6
海洋生命・分子工学(生体機能物質工学)コース	0	1	5	7	12
災害科学(防災科学)コース	0	1	4	1	10
合計	6	10	34	47	83
合計 (%)	3	6	19	26	46

11. 満足しなかった理由を下記より選んでください。(複数回答可)

- A. 実力がつかなかった B. 不親切でわかり難い授業だった
 C. 教材の工夫が見られなかった D. 教員の熱意が感じられなかった
 E. 一方的な押し付け授業だった F. 内容が古すぎた
 G. 内容が体系的でなく断片的だった
 H. その他

	A	B	C	D	E	F	G	H
数学(数理科学)コース	10	22	6	3	18	1	0	4
物理科学(物質基礎科学)コース	8	6	2	1	6	1	1	1
化学コース	3	11	7	6	11	0	1	0
生物科学コース	10	10	4	3	8	0	2	2
地球科学(地球史環境科学)コース	2	4	0	2	4	0	1	1
情報科学コース	3	2	2	1	3	0	1	0
応用化学(物質変換科学)コース	3	11	4	5	8	1	1	0
海洋生命・分子工学(生体機能物質工学)コース	11	12	7	7	12	0	3	0
災害科学(防災科学)コース	6	7	1	3	3	1	2	0
合計	56	85	33	31	73	4	12	8
合計 (%)	31	47	18	17	41	2	7	4

○数学 (数理科学)コース

- ・ 2/3 落とす教養の授業は納得がいかなかった
- ・ 思ったのと違った
- ・ 特にないが、何となく

○物理科学 (物質基礎科学) コース

- ・ 自分の頭が悪いから。

○生物科学コース

- ・ 自分の興味がなかった。
- ・ 言葉がききとれなかった

○地球科学 (地球史環境科学) コース

- ・ 分野 (物理) の知識がなく、授業内容がわからなかった。

○災害科学 (防災科学) コース

- ・ シラバスと全く違う内容の授業だった

【標準履修モデル】

12. 基礎科目は、授業内容や難易度において適切に配置されていましたか。

- A. 配置されていた B. 概ね配置されていた
C. あまり配置されていなかった D. 配置されていなかった

	A	B	C	D
数学(数理科学)コース	16	23	2	1
物理科学(物質基礎科学)コース	6	11	2	0
化学コース	6	10	3	0
生物科学コース	6	20	0	0
地球科学 (地球史環境科学)コース	3	4	1	0
情報科学コース	4	3	0	0
応用化学 (物質変換科学)コース	3	12	3	0
海洋生命・分子工学 (生体機能物質工学)コース	9	12	4	0
災害科学 (防災科学)コース	4	11	1	0
合計	57	106	16	1
合計 (%)	32	59	9	1

13. 専門科目は、授業内容や難易度において適切に配置されていましたか。

- A. 配置されていた B. 概ね配置されていた
C. あまり配置されていなかった D. 配置されていなかった

	A	B	C	D
数学(数理科学)コース	19	20	3	0
物理科学(物質基礎科学)コース	6	8	5	0
化学コース	4	12	3	0
生物科学コース	5	20	1	0
地球科学(地球史環境科学)コース	2	6	0	0
情報科学コース	3	4	0	0
応用化学(物質変換科学)コース	2	14	1	1
海洋生命・分子工学(生体機能物質工学)コース	11	14	0	0
災害科学(防災科学)コース	7	9	0	0
合計	59	107	13	1
合計(%)	33	59	7	1

14. 各教育コースは独自の教育目標を掲げています(履修案内等を参照してください)。この教育目標は標準履修モデルと合致していましたか。
- A. 合致していた B. 概ね合致していた
C. あまり合致していなかった D. 合致していなかった

	A	B	C	D
数学(数理科学)コース	12	27	3	0
物理科学(物質基礎科学)コース	5	10	3	1
化学コース	3	14	2	0
生物科学コース	3	22	1	0
地球科学(地球史環境科学)コース	1	7	0	0
情報科学コース	1	6	0	0
応用化学(物質変換科学)コース	2	13	2	1
海洋生命・分子工学(生体機能物質工学)コース	3	21	1	0
災害科学(防災科学)コース	4	11	1	0
合計	34	131	13	2
合計(%)	19	73	7	1

【専門科目への要望】

15. 「より高度な授業内容を実施してほしい」という要望に対するあなたの意見をお聞きます。
- A. 全くそのとおりである B. 概ねそのとおりである
C. あまりそう思わない D. 全く思わない

	A	B	C	D
数学(数理科学)コース	6	17	18	2
物理科学(物質基礎科学)コース	2	9	8	0
化学コース	3	6	7	3
生物科学コース	4	14	7	1
地球科学(地球史環境科学)コース	1	3	3	1
情報科学コース	0	5	2	0
応用化学(物質変換科学)コース	1	10	6	1
海洋生命・分子工学(生体機能物質工学)コース	5	11	9	0
災害科学(防災科学)コース	1	11	4	0
合計	23	86	64	8
合計(%)	13	48	35	4

16. 「難しい授業が多すぎるので、もう少しレベルを下げしてほしい」という要望に対するあなたの意見をお聞きます。

- A. 全くそのとおりである B. 概ねそのとおりである
C. あまりそう思わない D. 全く思わない

	A	B	C	D
数学(数理科学)コース	2	10	29	1
物理科学(物質基礎科学)コース	1	7	11	0
化学コース	1	5	6	7
生物科学コース	0	8	14	4
地球科学(地球史環境科学)コース	0	2	6	0
情報科学コース	0	1	4	2
応用化学(物質変換科学)コース	0	4	13	1
海洋生命・分子工学(生体機能物質工学)コース	0	6	15	4
災害科学(防災科学)コース	1	5	8	2
合計	5	48	106	21
合計(%)	3	27	59	12

17. 「実験実習や野外調査の時間を増やしてほしい」という要望に対するあなたの意見をお聞きます。

- A. 全くそのとおりである B. 概ねそのとおりである
C. あまりそう思わない D. 全く思わない

	A	B	C	D
数学(数理科学)コース	3	9	16	13
物理科学(物質基礎科学)コース	3	5	8	3
化学コース	3	7	7	2
生物科学コース	8	15	2	1
地球科学(地球史環境科学)コース	2	3	3	0
情報科学コース	2	2	3	0
応用化学(物質変換科学)コース	4	8	4	2
海洋生命・分子工学(生体機能物質工学)コース	5	7	8	5
災害科学(防災科学)コース	10	5	1	0
合計	40	61	52	26
合計(%)	22	34	29	14

18. 「社会に出て役立つことを授業に盛り込んでほしい」という要望に対するあなたの意見をお聞きします。

- A. 全くそのとおりである B. 概ねそのとおりである
C. あまりそう思わない D. 全く思わない

	A	B	C	D
数学(数理科学)コース	4	13	23	2
物理科学(物質基礎科学)コース	3	2	13	1
化学コース	4	5	9	1
生物科学コース	6	7	13	0
地球科学(地球史環境科学)コース	1	2	5	0
情報科学コース	0	3	4	0
応用化学(物質変換科学)コース	4	4	9	1
海洋生命・分子工学(生体機能物質工学)コース	6	8	8	3
災害科学(防災科学)コース	4	9	3	0
合計	32	53	87	8
合計(%)	18	29	48	4

19. 18でAあるいはBを選択した人にお聞きします。社会に出て役立つこととはどのようなことを考えていますか。具体的に書いてください。

○数学(数理科学)コース

- ・人間性、体験的な授業
- ・課題を自らみつけ解決すること。

- ・ベンチャービジネスまで、社会の仕組みや営業工夫
- ・表情豊か、人とのコミュニケーション
- ・コミュニケーション能力、考える力
- ・コミュニケーション能力、発表（プレゼンテーション）能力、社会的マナーなど
- ・コミュニケーション能力
- ・職場経験
- ・コミュニケーション能力
- ・自分の夢に目標について興味（？（字が読みにくい））がある内容に役立つ時
- ・様々な職種の仕事内容についてなど
- ・人との関わりをもっと親密に！！（目上の方と）
- ・協調性を持ち、課題に取りこめること
- ・パソコンスキル
- ・コミュニケーション能力

○物理科学（物質基礎科学）コース

- ・地域の人が講師など。
- ・社会に出て利用できるような専門知識。
- ・理系がよく就職する企業や業界の方がその業界に役立つような実験や講義を行えば良いと思います。
- ・教養科目全般 専門は全員にとって必要なものではないけれど、教養はどの道へ行っても必要と感じる。マナー講座など必修にしたらいいと思う。

○化学コース

- ・社会人との交流がもっとあるといい。
- ・就職実践
- ・人（相手）に自分考えを発表する力。
- ・実用例をあげる。
- ・コミュニケーション能力、プレゼン力、思考力
- ・対人コミュニケーション

○生物科学コース

- ・潜水訓練、専門知識
- ・人とのコミュニケーションする能力。
- ・今の所、よく分からない
- ・礼儀、メールの送り方、付き合い方、実際の社会人の方に本当はどのようなことをしているかを聞く。
- ・標本の作り方や、家庭でもできる実験・調査等
- ・具体例はあまりうかびません。
- ・実際に研究が間接的にでもどのような所に関わってきているのか、身近な例をもっと知りたい。

○地球科学（地球史環境科学）コース

- ・コミュニケーション力、伝える力、問題解決力
 - ・研究分野の内容が盛り込まれている職種（例えば教員など）に入れば良いと考えている。
まず、こういうことはむしろ自分で勉強（調べて）いくべきだと考える。
- 情報科学コース
- ・社会人としてのマナーと常識
 - ・特に数学系ですが、少しでも良いので習っている公式等がどのような場面で活用されているのかお話しをいただけると興味を持ちやすいかなと考えます。
 - ・人間関係などのようなことである
- 応用化学（物質変換科学）コース
- ・論理的な物の考え方
 - ・コミュニケーション能力、計画性、情報収集力
 - ・インターンシップを必修にする。
 - ・社会人としてのマナーや礼儀作法について実践形式でやる。
 - ・コミュニケーション能力、人との接し方
 - ・実際に社会で働いている人の話を聞く機会が増えるといい刺激になると思います。
- 海洋生命・分子工学（生体機能物質工学）コース
- ・様々な年代の人とのコミュニケーションのとり方など。
 - ・礼儀。具体的には話し方、上下関係など（丁寧語、尊敬語、謙譲語）
 - ・英語をもう少し
 - ・社会で必要な力（コミュ力、協調性）が身につけられること。
 - ・マナー、コミュニケーション、一般事務に対する知識など。
 - ・コミュニケーション能力
 - ・就職関係
 - ・社会的なマナーについて
 - ・対人力、プレゼン力
 - ・仕事をして、その成果が人の為になること。
- 災害科学（防災科学）コース
- ・対人的に外の人との交流
 - ・考え方や概念など
 - ・どんな内容も社会に出て役立つことだと想います。
 - ・地域貢献など
 - ・経済学や教育学などの充実。
 - ・マナー
 - ・生活の一部となるもの。
 - ・専門的な知識を普段の生活でも活かせるような。知識を活かしてニュースやラジオをきけるようになりたい。
 - ・キャリア形成。

【成績評価】

20. これまで受講した授業について、成績評価の方法は適切であったと思いますか。

- A. 適切であった B. 概ね適切であった
C. 適切でない授業もあった D. 適切でない授業がたくさんあった

	A	B	C	D
数学(数理科学)コース	11	22	9	0
物理科学(物質基礎科学)コース	4	9	5	1
化学コース	3	9	5	2
生物科学コース	8	14	4	0
地球科学(地球史環境科学)コース	2	4	2	0
情報科学コース	2	4	1	0
応用化学(物質変換科学)コース	2	11	4	1
海洋生命・分子工学(生体機能物質工学)コース	6	14	4	1
災害科学(防災科学)コース	6	7	3	0
合計	44	94	37	5
合計(%)	24	52	21	3

【授業改革】

21. 理学部の各学科が開設している授業科目数と内容は適切だと思われませんか。

- A. 適切である B. 概ね適切である
C. 足りない D. 多すぎる

	A	B	C	D
数学(数理科学)コース	12	27	1	2
物理科学(物質基礎科学)コース	4	14	1	0
化学コース	4	12	2	1
生物科学コース	6	18	1	1
地球科学(地球史環境科学)コース	4	4	0	0
情報科学コース	2	5	0	0
応用化学(物質変換科学)コース	2	14	2	0
海洋生命・分子工学(生体機能物質工学)コース	10	13	1	1
災害科学(防災科学)コース	6	10	0	0
合計	50	117	8	5
合計(%)	28	65	4	3

22. 21 で C あるいは D を選択した人にお聞きします。どんな授業を増やせば(減らせば)よ

いと思いますか。具体的に書いてください。

○数学 (数理科学)コース

- ・おもしろい授業
- ・早めに細かい専門の授業を取り始めるように無駄な授業を省く。

○物理科学 (物質基礎科学) コース

- ・学問基礎論だけは必要ないと思います。
- ・必修化を増やして、学部生の知識を統一すればいいと思う。

○化学コース

- ・有機、無機の専門
- ・出席だけで学位がでる物
- ・有機化学に傾っていて、物理化学が少ないと思います。

○生物科学コース

- ・専門が多すぎた。
- ・4年間で選択できる教科が少ないため、4年間でいつ受講するかの順番選びに近くなっている。もっと専門科目の種類を増やしてほしい。

○応用化学 (物質変換科学) コース

- ・物理化学系が少ないので増やした方がいいと思います。
- ・有機化学にかたよっている所以他の分野にも力を入れるべき。分析は演習とそれまでの授業で内容に差があってわかりにくいというところがあった。

○海洋生命・分子工学 (生体機能物質工学) コース

- ・理学部に外国語を受けさせないで選択性にしてほしいです。大学英語入門で初級や S クラスになる人のことを考えて欲しいです。いじめにもつながりそうです。
- ・専門科目の授業はもっと増やしてほしいです。

【アドバイザー教員制度】

23. アドバイザー教員の指導・支援は適切でしたか。

- A. 適切であった B. 概ね適切であった
C. あまり適切でなかった D. 適切でなかった

	A	B	C	D
数学(数理科学)コース	26	15	0	1
物理科学(物質基礎科学)コース	12	5	2	0
化学コース	9	8	2	0
生物科学コース	13	12	1	0
地球科学 (地球史環境科学)コース	8	0	0	0
情報科学コース	6	1	0	0
応用化学 (物質変換科学)コース	7	10	1	0

海洋生命・分子工学 (生体機能物質工学)コース	20	5	0	0
災害科学 (防災科学)コース	11	4	1	0
合計	112	60	7	1
合計 (%)	62	33	4	1

24. 総合的に考えて、高知大学理学部で学んでよかったですか。

- A. とてもよかったですと思う B. おおむねよかったですと思う
C. あまりよかったですと思わない D. よかったですと思わない

	A	B	C	D
数学(数理科学)コース	21	19	2	0
物理科学(物質基礎科学)コース	8	8	3	0
化学コース	2	14	3	0
生物科学コース	7	17	2	0
地球科学 (地球史環境科学)コース	5	3	0	0
情報科学コース	5	2	0	0
応用化学 (物質変換科学)コース	4	14	0	0
海洋生命・分子工学 (生体機能物質工学)コース	14	10	1	0
災害科学 (防災科学)コース	12	4	0	0
合計	78	91	11	0
合計 (%)	43	51	6	0

25. 理学部の教育や高知大学の教育全般について、意見があれば書いてください。

○数学 (数理科学)コース

- ・3年次からゼミの配属があってもよいと思う。4年次だけだと学習できる範囲が少ない。
- ・教育学部以外の他学部の教育系の授業や説明会などを多くしてほしい。
- ・後輩にはもっとレベルの高い授業をしてあげてほしいです。
- ・4年間ありがとうございました。とても有意義でした！

○物理科学 (物質基礎科学) コース

- ・自由な校風で良かったと思います。
- ・大学ならではの斬新な授業がもっとあったら良いと思う。
- ・大学3年生時からゼミの必修化。

○生物科学コース

- ・アドバンスコースに比べてジェネラルコースは楽すぎると思うので、取らなければならない授業を大幅に増やすか、発表の機会を2回以上するなどの対策を立ててほしい。
- ・簡単な講義と難しい (不親切で分かりづらい) 講義の差が激しすぎると思います。

- ・生物をもっと野外で学びたかった。
- ・教職をとるにあたって、必ず卒業後教員を受けないといけないのは学生の進路をしばっている。

○地球科学（地球史環境科学）コース

- ・卒業研究に取り組む姿勢において理学部のコースごとに差が大きすぎる。
（化学コース、応用化学コースは、研究室の拘束時間が長いのに数学コースは、研究（？）に取り組む時間が短い。）
- ・高知大学の地球科学コースにおける設備は、ほかの大学に負けない自信があります。もっとアピールすべき。特に高知コアセンター。
- ・情報科学と地球科学コースが卒論必修なのはなぜだろう？
- ・22の質問についてなのですが、足りないのであれば自分でさらに学習し、多すぎるという方はそれらをしないとわからないものはわからないままになってしまうことを考えるべきだと思う。

私は教育全般をみると、とても充実した内容を得ることができたので満足しています。ありがとうございました。

○情報科学コース

- ・KULASの単位の確認、授業の日程、出席の確認などが情報不足であったと思います。

○応用化学（物質変換科学）コース

- ・1年のうちに進むコースを決めておかなければならないカリキュラムなので、2年次にコース選択をするのは遅い気がする。
- ・卒論は全員に書かせた方がいいと思います。
- ・今のスタンスを変えずにやってほしい。メリットもデメリットも高知大のよさだと思うから。

○海洋生命・分子工学（生体機能物質工学）コース

- ・もっと嫌がらせのように4年生や3年生に就活の電話や手紙を送り、こないと卒業できない就活の授業を開講して大学の就職率を100%にすることをめざすべき。
- ・履修上限のせいで苦しんだ。教育免許を取得する場合、様々な授業をうけてみたいのに受けられない。単位数のことを常に気にしなければならない。

○災害科学（防災科学）コース

- ・2年からコース選択をするが、1年のうちに専門科目をとっておかないと後々つらいことが多い。授業科目の構成をもう少し考え直してほしい。
- ・楽しかったです。